
打倒ファンガイア！

中学星人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

打倒ファンガイア！

【Nコード】

N8153Z

【作者名】

中学星人

【あらすじ】

13 魔族最強の力を誇るファンガイア。

他の魔族は、ファンガイアに対し逆転の機会を狙っていた。目覚めよその根性！ファンガイアをブツ潰せ！

? 4つの時代

ー2008年ー

人間が栄える時代。彼らは本能より知能を活かし、か弱い体と短い寿命で有りながらも生き延び、発展してきた。

自らが13魔族の一つであることも忘れてしまう程に・・・

ルーク「次のターゲットは・・・ニット帽だ。」

ルーク。チエックメイトフォーの一人であり、ファンガイア族ピーストクラスのライオンファンガイア。ゲーム感覚でライフエナジーを取り込んでいる。

シャドウ「相変わらず、いい体格だよな。」

ダーク「でもファンガイアだし、その上チエックメイトフォーだろ。いざとなったら殺され兼ねないぞ。」

シャドウ「でも俺ら、もう限界だ。」

ダーク「ああ。早くいい体見つけたいとな。」

彼らはゴースト族。肉体を持たず霊魂だけで生きている。しかし他の生物に憑依しないとライフエナジーを取り込めない。

ダーク「・・・お?」

そんな2人の目の前に、死にかけて人間が現れた。1人は金髪でチャラい格好の青年。もう1人は黒髪で和服を着た青年だ。

ダーク「都合よく2人もいるじゃねえか。」

シャドウ「もう迷ってる暇はない。あいつらに憑こう。」

シャドウは黒髪に、ダークは金髪に憑いた。

ダーク「さーて、食いに行くか。」

シャドウ「ああ。」

ー1986年ー

あらゆる面で不安定な時代。人間は対ファンガイアを意識し始めた。

次郎「・・・本格的にどうする？」

ラモン「僕もいつ死ぬかわからないしね。」

カ「・・・なんとか子孫を残さないか。」

御損じアームズモンスター。それぞれ各一族最後の生き残りで、なんとか根絶を避けようとしている。

次郎「ラモン、お前はマーメイド族を見つければ・・・」

ラモン「彼女らは水棲種族としか交配しないと思うし、人間によってかなり減ってるよ。」

カ「・・・」

ー2008年ー

シャドウ「・・・ふう。」

2人は食事を終え、街を徘徊していた。

ダーク「どうやらこの体の持ち主、隣町で行方不明になってるらしいぞ。」

シャドウ「そうか。じゃあ早く消えるか。隣じゃあすぐ見つかって面倒だ。」

ダーク「それもそうだな。」

ー2030年ー

より発展した時代。ファンガイアは人間との共存を目指し、ライフエナジーに変わる新エネルギーを開発した。

その名はソーラーブレシング。太陽の光によって生きるためのエネルギーを生み出すのだ。

真介「コレを人間の作った料理と共に摂取すれば、ファンガイアは今まで通りに生きていけるはずですよ！」

彼は名護真介。名護さんと恵の息子だ。

太牙「素晴らしい。やはり君をこの研究に参加させて正解だった。」
御損じ登太牙。今も社長を続けている。

だが他の魔族は、戦意を無くしたファンガイアに復讐を企んでいた。

「2008年」

シャドウ「よし、切符も買ったし、早速・・・ん？」
ダーク「どした？」

シャドウ「・・・あれ。」

シャークF「ウオオ！」

キバット「おい渡！エンペラーの方がいいんじゃないのか？」

キバBF「そうだね・・・」

ダーク「ああ、ファンガイア見てるとムシャクシャする！」

シャドウ「ああ。」

キバEF「うわあ！」

キバット「おいおい大丈夫かよ。」

タツロツト「早くケリつけますよ。」

ダーク「何やってんだよ早く倒せよ！」

シャドウ「ああ。」

キバとファンガイアは徐々に此方に近付いてくる。

シャークF「ウオオオオ！！」

キバEF「ぐうう・・・」

シャドウ「さつきから何手こずってんだよ。」

キバEF・シャークF「！？」

シャドウ「キバならファンガイアなんざ軽く倒せるだろうが。」

キバEF「でも・・・」

シャドウ「もう我慢できん。」

シャドウは右手から細く黒い炎を放った。

シャークF「グアア！」

シャークファンガイアは碎け散った。

それと同時にライフエナジーが飛び出る。

ダーク「頂き！」

一瞬の内に、ライフエナジーは消えた。

キバット「あんたら一体・・・？」

シャドウ「いずれ分かる。」

そう言うのと振り返り、シャドウ達は進んで行った。

ダーク「おいおい電車行っちゃったぞ！」

シャドウ「ええ！？」

「1964年」

人間が未熟な面を見せる時代。ファンガイアの存在も、全くと言っていい程知られていなかった。

ビショップ「しつこい連中ですね。」

ルーク「……つたく、内戦は構わないけど俺らは巻き込まないで欲しいぜ。」

ゴブリン族がファンガイア族に宣戦布告し、戦争が始まろうとしていた。

ビショップ「しかし、こちらにも切り札があります。」

ルーク「まあ、キバの力があればイチコロだな。」

22年ごとに区切られた4つの時代。

ファンガイアとの宿命の戦いが、今始まる！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8153z/>

打倒ファンガイア！

2011年12月25日23時51分発行